

海の声

VOICE OF OCEAN

地域の皆様と保護者の皆様と
子どもたちとわたしたち
御所浦小でおこすステキな奇跡

6年生が修学旅行に出かけ、そして帰って参りました。正直なところ、今年の修学旅行は、延期を重ねたうえ、代替で県内旅行、または中止というシナリオを描いていました。しかし、長崎や佐賀または熊本における県民の皆様によるコロナ流行の沈静化含め、本当にいろいろな人のご努力で、こうやって、修学旅行を実施することができました。

修学旅行での学びは6年間の集大成であり、6年生が見学先で見せる姿は、6年間の学びの姿です。

下に書いていますように、低学年のニュースポーツ体験で来ていただいた方へのあいさつ感想発表、お礼は修学旅行のそれと一緒にです。後片付け等をかけ足ですること、話をよく聞くこと、見学先での立ち振る舞い等も日々の学びであり、それと修学旅行はリンクします。集団行動という画一的なイメージも受けますが、さつと効率的に動くということ、子どもたちはそれにより計画より早く進み、その報酬として自由時間や買い物時間を長く得ることができました。

1、5年生にとつての修学旅行の準備はもう始まっています。それは社会に出たときにどう振る舞うか、と少し似ています。家庭や学校での成長のバロメータは、社会に出たときにもできるか、ということ。先日就学時健診でもお話ししましたが、10年ものさしで子どもを観る」ということです。10年後もその振る舞いでいいか、ということ。善し悪しを判断していただければと思います。大概にして、保護者が「むむむ」と思ったときは言うときです、教えてやるべきです。

6年生はすばらしい態度で修学旅行の2日間を過ごしました。そしてこれから、5ヶ月後の卒業式というフィナーレに向けて、6年間の学びのすべてをぶつけていきます。私たちは職員みんなどでそんな6年生を、そして坂瀬先生を応援したいと思っています。

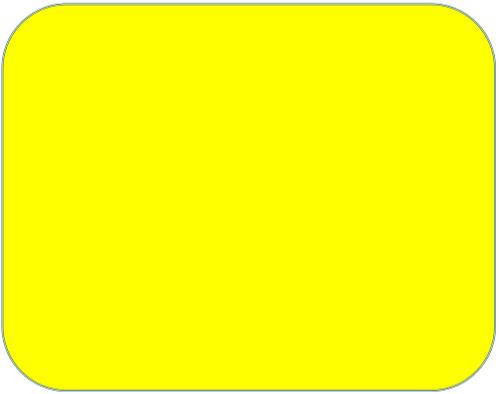
5年生の最高学年としての修学旅行の学びがスタートすると同時に、6年生の卒業に向けてのカウンタダウンが始まりました。



校訓】人を慈しみ、己がつとめをつくす
御所浦小学校
学校通信
令和2年10月30日
文責・木村純一

14

だれの言葉でしょう？



自分の人生を悔いて生きるか、自分の人生をほこって生きるか、同じ人生でも、全然ちがってくると思えます。

目の前にあるチャンスに気づかず生きるのか、目の前にあるチャンス宝物のように大切に育てるのか、これまた大きなちがいが出てきますよね。修学旅行もその一つ！

(総長は「の通信の右ページ」)

このときの歌声に観光の人からお礼の言葉をいただきました！まさに「ごしょうらのほこり」です！

6年後



これは低学年ニュースポーツ体験のワンシーンです。こんな学びの積み重ねが6年生の修学旅行へとつながっていきます。

(郵送田島・西宮健米) (ちかれごのびり年) (総長)